

## 平成 28 年度新規要望課題

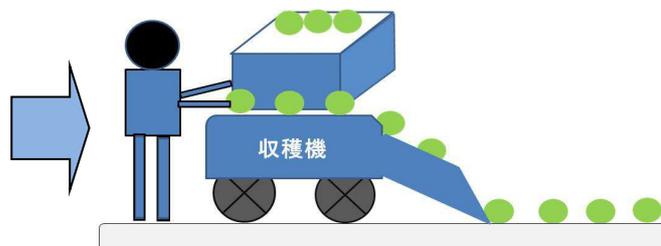
研究区分	革新的技術開発・緊急展開	試験期間	H28～30
課題名	レタス収穫機の開発		
関連の重要研究課題名	Ⅱ－１－（３）野菜の栽培法改善による低コスト・省力化、軽作業技術の開発 機械化による軽作業化と作業時間短縮		
主担当 試験場・部	野菜花き試験場・野菜部		

### 【現状と課題】

◎ レタスやキャベツ生産では、収穫、箱詰め、圃場からの持ち出しに多くの労力を要し、夏季の農繁期には労働力不足が課題となっている。キャベツでは、加工業務用向けに収穫機が開発され、北海道などでは導入が始まっているが、青果用出荷と加工業務用出荷を同時に行っているレタスでは、収穫機は開発されていない。信州大学工学部では、平成 27 年度の単年度事業「農林水産業におけるロボット技術研究開発事業」においてレタス・キャベツ収穫機の開発を開始したが、試作機ができたものの実用化までには多くの課題が残っている。そこで、この試作機を基にして、実用的な収穫機の開発を行う。

### 【試験研究計画】

- 1 レタス収穫機の開発（信州大学工学部、機械メーカー）
- 2 収穫機の圃場における実用性の調査と作業性の検討（野菜花き試）
- 3 収穫機の作業時間短縮効果及び軽作業化の評価（野菜花き試）



#### 現行

人の手による収穫、段ボール箱詰め

#### 新方式

機械による収穫、コンテナ詰め

### 【期待される成果】

- 1 レタス・キャベツの収穫出荷作業が軽労化される。
- 2 労働力不足の解消につながる。